



バスラ日誌 (3月28日)

1 昨日に引き続きバスラLOの業務実施要領について書こうと思う。昨日も述べたが、同じ者が常に本隊との連絡・調整にあたることはできない、しかし本隊は我々の迅速・正確な情報を必要とすることが常態であるとの認識から「情報の共有」は我々の業務遂行上、不可欠なものであると感じている。「いかにして情報を共有するか」、これは非常に重要で、また困難な問題でもある。我々がLO業務を実施するなかで、いかにして情報を共有しているかを紹介しようと思う。まず第1に、認識統一のためのミーティングがある。基本的に朝0930、夕1600に4人全員が集まって、今までの状況や完了した業務、現在の状況や実施中の業務及び実施予定業務を伝達し、相互の状況及び実施業務の把握に努めている。第2に申し送りノートがある。これは日本隊J-3LOの位置に備え付けのノートで、情報要求や連絡事項を記載して全員がそれに目を通すことによって、情報の共有を図ろうとするものである。第3に様事項で以下の3つである。①陸自メール・申し送りノート・メールは、最低朝・昼・夕の3回、自分の目で確認する。②情報要求(メール・口頭)は確認したものが、申し送りノートに記載し、班長に報告するとともに、担当者に直接伝達する。③情報要求対応等の業務終了を班長に報告する(翻訳の場合、点検も含む)。以上3点を徹底することによって情報の共有を図っているが、それでも情報はうまく伝わらないことがある。それは、当面の自分の業務に忙殺され、実施すべき3つの事項を1つも行わなかった場合であり、これを防止するには個人の自覚しかない。そのため、4つめとして我々は「相手を思いやる心」を持つよう心がけている。簡単に言えば、業務実施時に相手にとって何が助けとなり、また困ることなのかを考えることだが、これが本隊から遠く離れて業務を実施している我々にとって、最も大切なことであると思っている。これからも「相手を思いやる心」をもって、LO業務に邁進していきたいと考えている。

2 バスラLOアブリビ講座第1回目:「BAS」(バスラ・エアー・ステーション)
MND(SE)(Multi National Division South East)の司令部、第7機甲旅団司令部、英空軍、JH F(Joint Helicopter Force)が所在。バスラ国際空港と同じ敷地内にある。バスラLOはMND(SE)司令部で勤務している。
(バスラLO一同)